

○自ら学び自ら考える子「なるほど」 ○お互いを認め合う子「いいね」 ○心身ともに元気な子「しっかり」

北大和小だより 2月号

令和5年1月31日
大和市立北大和小学校
〒242-0001 大和市下鶴間685
ホームページ <http://www.ed2.city.yamato.kanagawa.jp/s-kiita/>



「北大和小ありがとう週間」

先日の講話朝会での児童に向けた話です。

「普段、感じているのだけど、なかなか口に出すことがない言葉があります。みなさんは、お世話になっている方に「ありがとうございます。」と伝えていませんか。なかなか伝えにくいものです。普段、口癖のように「ありがとうございます」と感謝の気持ちを伝えている人には当たり前なのですが、そうではない人にとっては言いにくい言葉なのかもしれません。

さて、逆の立場で、みなさんが誰かのことを手伝ってあげたり、困っている様子なので助けてあげたりしたとしましょう。そのときに、手伝ったり助けたりした、その人から「ありがとう」「とても助かった」などと言われると嬉しくなりますよね。また、今度も手伝ってあげよう。助けてあげようと思うはずですよ。

だから、日頃から感謝の気持ちを持って「ありがとう」と伝えられる人は、逆に多くの人に助けってもらったり優しくしてもらったりすることもあるのではないかと考えます。「ありがとう」はいつか必ず自分に帰ってくると思います。

さて、学校では、そんな「ありがとう」といえる人に育ててほしいと思い、特に登下校の見守りの方や、給食を作ってくれている方、自分がお世話になっている方にみんなで「ありがとう」と声にして伝えてみることを提案してみるのはいかがでしょうかと考えました。

そこで、学校では2月1日～2月7日までの1週間を「北大和小ありがとう週間」として宣伝することにしました。普段お世話になっている人に注目して「いつもありがとうございます」と声に出してみたらどうでしょう。「ありがとう」が自然に言えたら、ありがとうと言って気持ちがいいと感じたら、素晴らしいです。「ありがとう」と伝えられる人になれると思います。」

このような話をして「北大和小ありがとう週間」として取り組むことにしました。背景としては、コロナ禍以前はこの時期の朝会で、日頃お世話になっている登下校見守りの方々を学校の朝会にご招待して感謝の気持ちを表す行事を行っていました。しかしこの3年間実施ができない状況があり、何とかお礼ができないかと考えていました。市内の「子ども見守り活動協議会」で他校の実践で同様の取り組みが紹介され、これならと対象を広げ企画したものです。

最後に、お願いです。保護者の皆様も、この「北大和小ありがとう週間」の企画に乗っていただき、登下校の見守りの方やお子様のお世話になっている方を意識して、一緒に関わっていただけないでしょうか。そして「挨拶すべき」「挨拶しなさい」ではなく、「挨拶できるかと思うよ」というように、「すべき」でなく「私はいいと思う」メッセージで伝えていただき、強制的ではない自発的な取り組みとなるとよいと考えています。

校長